

Global and Innovation Gateway for All

GIGA 通信

-児童生徒 1 人 1 台端末の日常的な活用に向けて-



発行元

佐野市教育センター

佐野市上羽田町 1134 番地 1

電話 20-3108

20-3048(相談専用)

6月に教育センターで実施させていただいた「1人1台端末活用に関する調査」では、お忙しいところご協力いただき、ありがとうございました。調査の結果から、各校で1人1台端末の活用が進み、授業はもちろんのこと、委員会活動や部活動、家庭学習など授業以外の場面でも積極的に利用されていることがわかりました。授業以外の場面での活用事例も、今後の「GIGA 通信」でご紹介していきたいと考えています。

さて、今回の「GIGA 通信」では、氷室小、栃本小、常盤中で参観させていただいた授業での取組を紹介いたします。

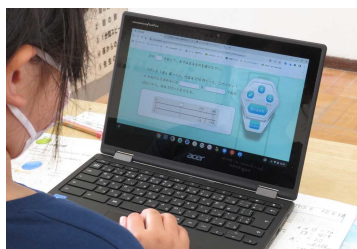
『授業での端末活用の日常化』

(氷室小学校での実践)

氷室小では、全ての学級で積極的に1人1台端末を活用した授業が展開されています。



昨年度も紹介いたしましたが、完全複式学級の氷室小では、先生が「わたり」で別の学年を指導している間、教科書の問題演習とともに「eライブラリ」を利用しており、それが習慣化されています。低学年の児童も、先生からの指示を待つことなく自分から「eライブラリ」にアクセスし、自主的に学習に取り組んでいました。



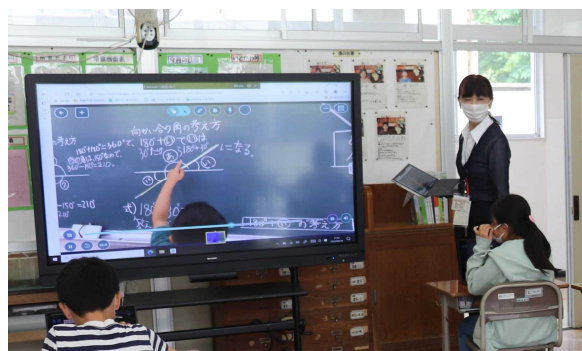
◇端末で記録した音声言語を繰り返し再生することで、児童の理解を助ける

4年生算数「角の大きさ」の学習で、180度より大きい角度の測り方を考えました。児童から

は3つの考え方が挙げられ、それぞれの児童が黒板を使って自分の考え方を発表しました。

その発表を「自分の考えと同じところや違うところ」、「友達の考えのよいところ」などの視点で聞き、どの解き方が分かりやすいかを考える場面では、端末を次のように活用していました。

- ①先生が、児童の発表を端末で録画する。
- ②発表を聞く側の児童が発表の内容を理解できるまで、先生は録画した発表を繰り返し再生する。



音声言語は、発せられたそばから消えていきます。耳で聞いて理解することが苦手な児童は、友達の説明を一度聞いただけでは、内容を正確に捉えることが難しい場合があります。本授業では、端末で発表を録画し、児童に繰り返し聞かせることで、全員の児童が内容を理解し、自分の考えをもつことができていました。

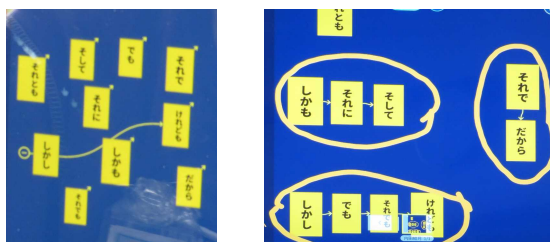
『ロイロノートの効果的な活用』

(栃本小学校での実践)

4年生国語「つなぎ言葉のはたらきを知ろう」の学習では、児童がロイロノートを活用して、つなぎ言葉の種類を知り、そのはたらきについて考えました。

◇自分に合ったやり方で考えをまとめ、友達と考えを共有する

つなぎ言葉の種類を知る学習場面では、ロイロノートで先生から配付された様々なつなぎ言葉のカードを各自でグルーピングし、それを全体で共有しました。同じ種類のつなぎ言葉のカードを「線でつなぐ」、「近くにまとめる」、「近くにまとめて丸で囲む」など、児童は自分が考えやすいやり方で分類していました。

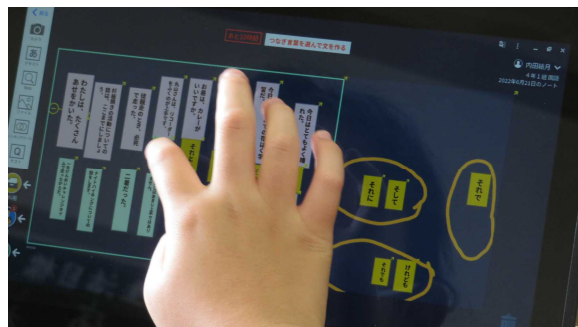


【インタークラスクラウドを使って考えを共有】

児童の考えをインタークラスクラウドを使って共有してみると、やり方は違っても、分類の結果はみんな同じであることが分かりました。

◇ロイロノートの2枚のシートで、前後の学習活動をつなぐ

授業の後半では、2つの文が並んだシートが再び先生から配付されました。児童は2つの文のつながりを考え、先ほどのカードを使って文と文をつなぐ活動を行いました。



初めは個人で考え、迷ったり分からなかったりする問題はペアで考えました。中には、「徒競走のとき、必死で走った。」と「二着だった。」という文をつなげるのに、自分は「しかし」を選んだけれど、友達は「でも」を選んだというペアがありました。子供たちは端末を指さしながら互いの考えを伝え合い、前半の学習を生かして、つなぎ



言葉は違ってもはたらきは同じであることを確認することができていました。

『これまでの実践に端末を組み合わせて活用』 (常盤中学校での実践)

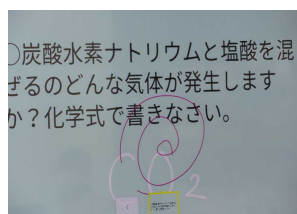
常盤中学校では、様々な教科において、端末の

活用が進められています。2年生の理科「化学変化と物質の質量」の学習では、これまでの実践（プリント等の教材を活用した指導）と端末を活用した指導を組み合わせることで、生徒の関心・意欲や理解を高める工夫を行っていました。

◇授業の始めと終わりに行う復習で、ロイロノートを活用

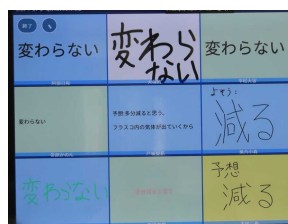
授業の始めに行った、前時の復習を兼ねた小テストでは、先生から生徒にロイロノートで問題が配付されました。生徒が書いて提出した解答を先生がその場で確認し、生徒に返していました。

授業の終わりには、本時の復習問題を生徒に配付し、それを解くことで復習をさせていました。生徒が提出した解答は保存されるので、授業後に先生が確認し評価に生かすことができます。



◇プリントと端末を組み合わせる授業を展開

常盤中の理科の授業では、授業の記録としてプリントも使用しており、生徒は、授業で配付されたプリントをファイルに綴じて保存しています。授業では、これまでで使用してきたプリントと新たに配置された端末を、状況に応じて組み合わせる展開していました。



【ロイロノートで考えを共有】 【プリントを投影して情報を共有】

実験の結果や振り返りはプリントに、復習問題の解答や授業中に先生から出されたプリントに書かれていない課題に対する自分の考えは端末に、というように、場面に応じてプリントと端末を使い分けて書くことは、生徒たちにとって日常なことになりつつあるようです。

